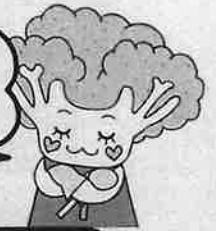


営農だより

カメムシの
すみかをなくすため
除草を徹底
しましょう



6・7月のポイント～10の推進技術・5つの1ヶ月対策～ (営農ブックP15、16参照)

- 中干しの期間は1ヶ月 ● 中干し後から出穂までの約1ヶ月は飽水管理
- 畦畔・農道等は7月上旬までに追加除草

ゆめみづほの出穂時期は平年並み～2日程度遅くなる予想です

また、田干しの不十分により生育が平年より遅くなっています。*今後の天候によっては平年並になります。一方で、莖数が多いほ場も見られることから、生育に応じた水管理を実施しましょう。特に、莖数が中干し開始の目安に達しているほ場では直ちに中干しを開始してください。

生育調査結果(コシヒカリ)

	6月7日現在	前年度
草丈(cm)	31.7	31.7
莖数(本/株)	12.4	11.9

*市内20箇所の観測田データの平均値

中干し期間は
 ゆめみづほ 6月25日
 コシヒカリ 6月末
 ひやくまん穀 7月5日
 頃まで実施しましょう!



出穂予想(6月12日現在)

	令和6年度	参 考	
		令和5年度	平 年
ゆめみづほ	7月18日～20日	7月15日～18日	7月18日
コシヒカリ	7月27日～29日	7月26日～7月28日	7月28日
ひやくまん穀	8月5日～7日	8月2日～4日	8月4日

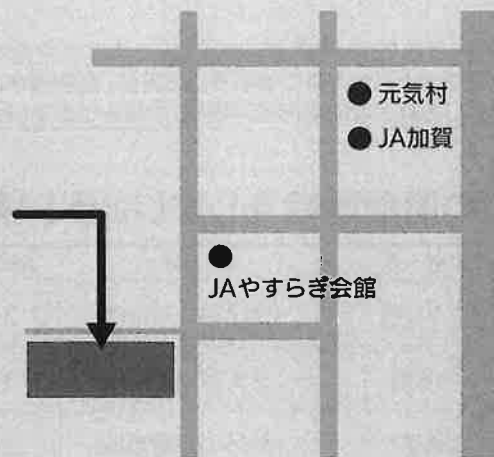
*今後の天候次第で変動することがあります。

青田講習会の開催

日 時 令和6年7月10日(水)
午後1時30分より

場 所 JA加賀カントリー裏圃場

内 容 ①出穂期の予測方法
②今後の水管理について
③その他



生産履歴記録簿を記帳しましょう!

カメムシの被害粒防止は「畦畔除草」+「本田の一斉防除」

早生の穂肥施用 (10a当り)

※基肥一発肥料田で茎数が少ない場合：施肥の1回目と2回目の中間の時期に窒素成分で1kg/10a以内で追肥する。

品種名	区分	分 施		穂肥一発肥料
		1回目	2回目	
ゆめみづほ 出穂予想 7月18~20日	施用時期	6/25~6/27 出穂23日前	7/8~7/10 出穂10日前	6/25~6/27 出穂23日前
	1回目の施用基準	幼穂長:1.5mm 葉色:4.0	—	幼穂長:1.5mm 葉色:4.0
	一般米	優米味(ゆめみ)R (16-5-10) 15~17kg	優米味(ゆめみ)R (16-5-10) 15kg	有機入 いしかわ穂肥一発055 (20-5-15) 20~25kg
	加工用米等	化成肥料 14-14-14 (14-14-14) 20kg	化成肥料 14-14-14 (14-14-14) 20kg	

穂肥施用時の注意事項

- 圃場によって生育の差があるので **幼穂長(1.5mm)** を必ず確認してから施用すること。
- 地力の高い圃場や転作後の圃場では施用量をやや少なくすること。

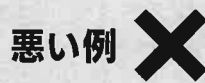
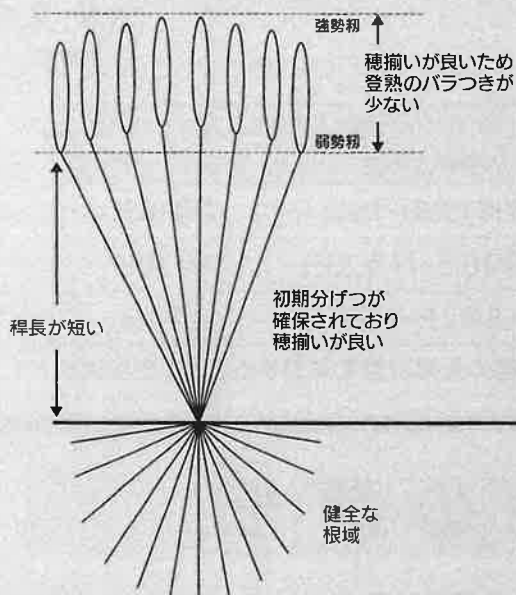
中干しの効果・意味

- ◎ 過剰分けつ防止と、草丈を揃え、出穂を均一にする。
- ◎ 根を地中深く張らせ、倒伏にくくさせる。



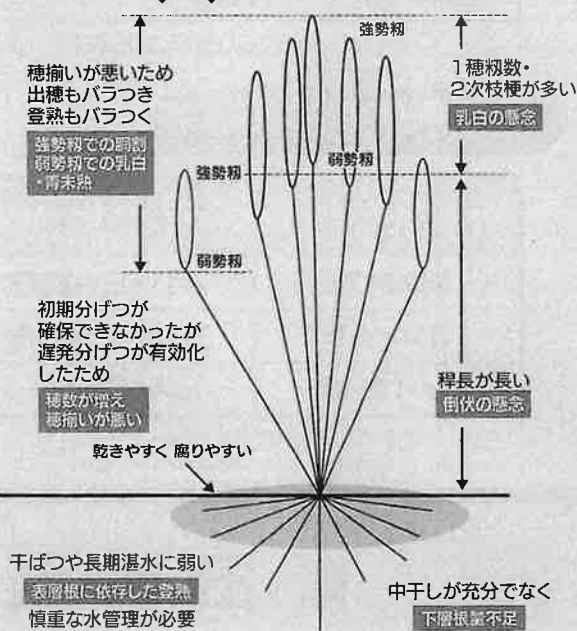
良い例

中干しを実施した場合



悪い例

中干しをしない場合



収量・外観品質・食味の三拍子揃ったお米を生産するためには、登熟を向上させることが重要です。登熟を向上させる為には中干しの実施、間断通水の水管理が必要です。中干しの終了は幼穂形成期頃で、ゆめみづほで6月25日、コシヒカリで6月末頃、ひやくまん穀で7月5日頃です。

■病害の適期防除をしましょう! (随時防除)

病害名	薬剤名	散布量(10a)	使用時期	注意事項
稲こうじ病	Zボルドー粉剤DL	3~4kg	出穂10日前まで	常発田で散布
いもち病	ブラシン粉剤DL	3~4kg	収穫7日前まで	2回以内。但しノンプラストレバリダ粉剤使用時は1回
紋枯病	バリダシン粉剤DL	3~4kg	収穫14日前まで	株元に薬剤が十分に届くように散布
イネアオムシ(フタオビコヤガ)	トレボン粉剤DL	3kg	収穫7日前まで	発生時に散布
カメムシ類	スタークル豆つぶ	250g	収穫7日前まで	カメムシ多発圃場にシャクで投げ込み散布 湛水散布